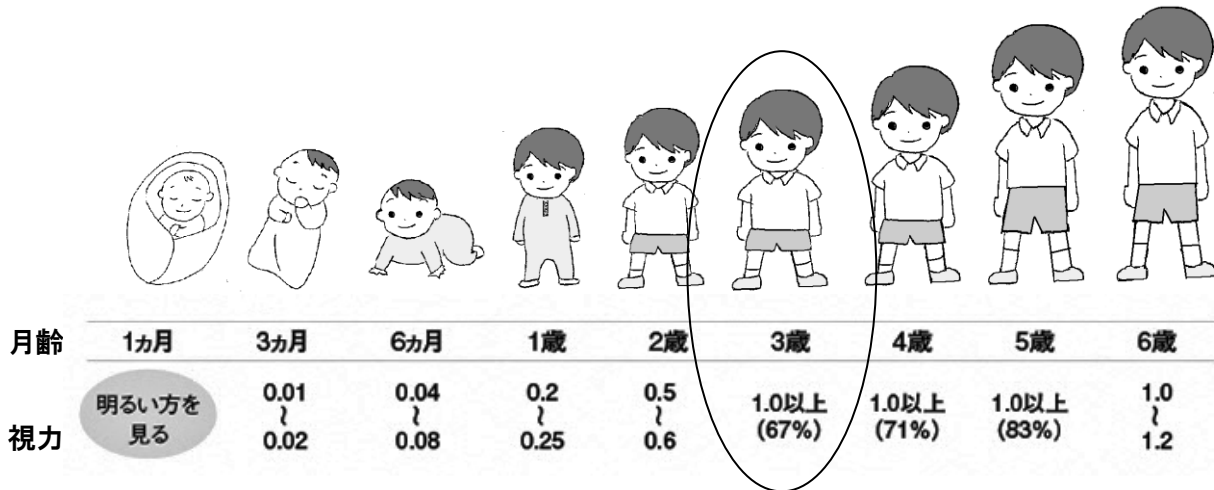


# 子どもの視力について

視力の発達は6歳まで！  
早期発見・早期治療を

## 視力の発達について

子どもの目は生まれてからだいたい6歳くらいまでにどんどん発達し、おとな並みの視力になります。ところが、強い屈折異常(遠視、近視、乱視)や斜視があると、視力の発達が止まってしまい弱視になることがあります。



## 弱視とは・・・

乳幼児期に目の病気・異常・けがなどによって、「物をくっきりと見る」ことが妨げられると、視力の発達が止まってしまうことがあります。これを弱視といいます。子どもの50人に1人に生じるといわれます。

**早い時期ほど弱視治療に対する反応が良く、遅くなるほど悪くなります。**

早期に発見し治療するためにも、3歳のタイミングで視力の確認を行うことが大切です！

### 弱視の世界

ぼんやりと見えているため、日常生活の中で周囲が弱視を見つけるのは困難です。



3歳児健診では事前にご家庭での視力検査と健診当日に屈折異常が発見できる検査を行い、必要時眼科診察をご案内しています。

